

## <ポイント版> ぎふ経済レポート（令和6年4月分）

### 【製造業】

○製造業は、2月の鉱工業生産指数は前月比▲1.2%となった。ヒアリングでは、売上、利益共に増加傾向にあるとの声が聞かれた。一方で、ウクライナ情勢、中国の景気減速等、複合的な要因により受注が悪化するとの声や、今後の為替や原油価格の不透明さにより利益見通しが立たないことを懸念する声が聞かれた。

○地場産業は、2月の鉱工業生産指数は、家具、木材・木製品、パルプ・紙、窯業・土石、繊維工業で上昇した。一方ヒアリングでは、昨年10月以降、販売量が低下傾向にあり、前年同期比2～3割程度の売上減少にて推移との声や、原材料に加え人件費が上がり、加工賃が負担になっているものの、中国や韓国のアパレルとの価格競争が激しく、価格転嫁できないとの声が聞かれた。

### 【設備投資】

○設備投資は、3月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比▲3.8%となった。ヒアリングでは、「中堅・中小企業の賃上げに向けた省力化等の大規模成長投資補助金」を利用し、新工場の建設を計画しているとの声が聞かれた。一方で、中国経済の減衰による影響が出てきているため、投資計画を延期する等の対策を行っているとの声が聞かれた。

### 【個人消費】

○個人消費は、3月の販売額は、ドラッグストア、家電大型専門店、百貨店・スーパー及びホームセンターにて前年同月比で上昇し、全体で同4.3%上昇となった。ヒアリングでは、生鮮食品スーパーの売上が好調との声が聞かれた一方で、在庫量は変わらず過剰が続き、利益は悪化しているとの声や、引き続き仕入れコストの上昇は継続しているとの声が聞かれた。

### 【観光】

○観光は、観光客数、宿泊者数ともに前年同月と同程度に留まるが、インバウンド客の増加等により、コロナ前の約9割まで戻ってきている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているほか、コストの高騰が続き、経営を圧迫しているとの声が多くあった。

### 【資金繰り】

○企業の資金繰りは、3月の制度融資実績は、14ヶ月連続で増加した。金融機関からは、大型の案件は少ないものの運転・設備資金ともに需要があり、特に製造業のウエイトは高いとの声や、個人消費の活発化も相まって、卸売業・小売業の運転資金需要も増加傾向にあるとの声が聞かれた。制度融資については伴走支援型特別保証制度を利用した借換需要の波がきているとの声が聞かれた。

### 【雇用】

○雇用面は、3月の有効求人倍率は1.60倍と30ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、社員教育に必要な管理者等の人材が不足しているとの声や、採用のため、工業高校をかなり訪問したが、成績は上がらなかったとの声、募集を広げているものの、賃上げにも関係してくるため応募は芳しくないとの声が聞かれた。

### 【景気動向】

2月の景気動向指数（一致指数）は前月比▲1.4ポイント、3月の中小企業の景況感と同▲1ポイントとなった。